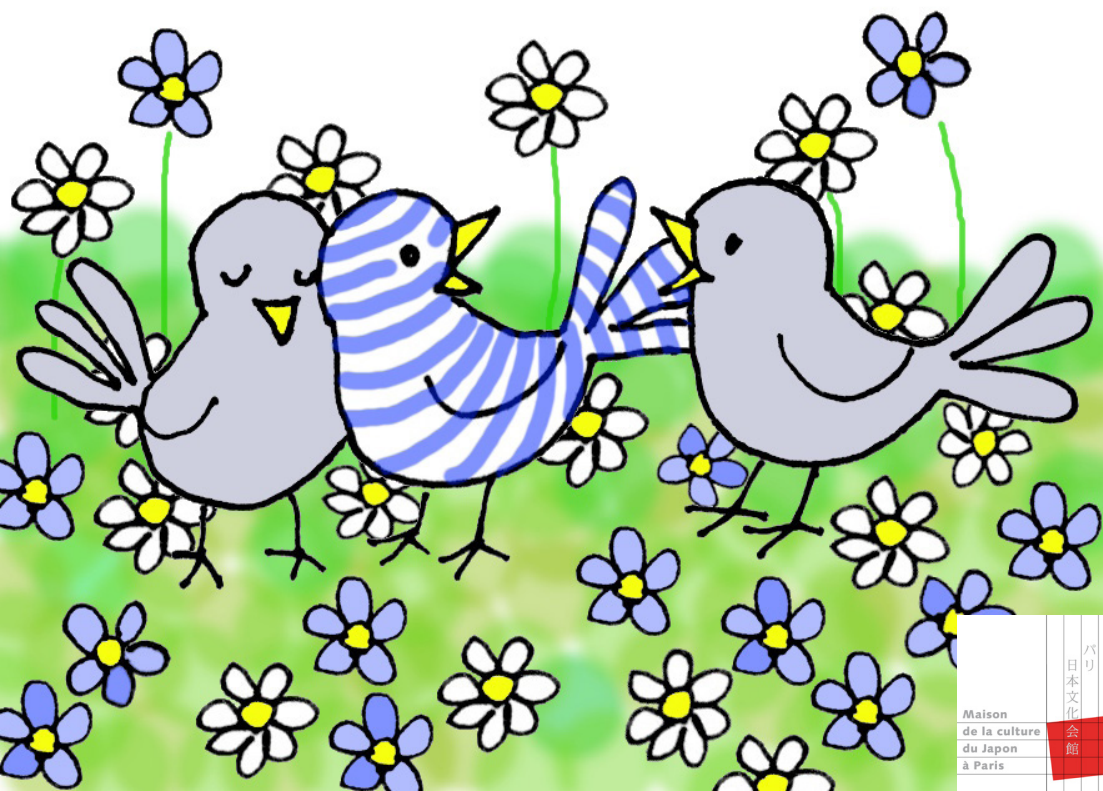


# しましまの鳥とり

さく 作  
え 絵

なか お ゆき え  
中尾 雪絵  
ば ば きょう こ  
馬場 恭子





しましまの鳥<sup>とり</sup>

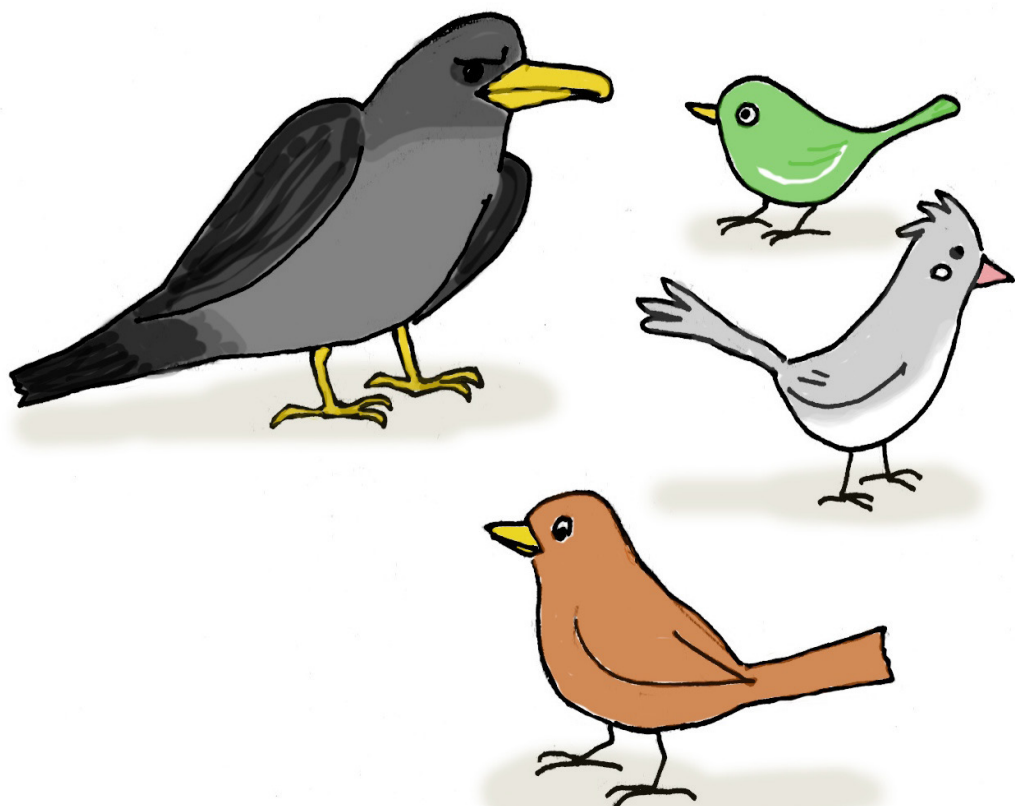
|    |    |   |     |   |
|----|----|---|-----|---|
| さく | なか | お | ゆき  | え |
| 作  | 中  | 尾 | 雪   | 絵 |
| え  | ば  | ば | きょう | こ |
| 絵  | 馬  | 場 | 恭   | 子 |



森の中に、  
たくさんの鳥が  
住んでいます。

小さい鳥、  
大きい鳥、  
足が長い鳥、  
泳ぐのが好きな鳥、  
遊ぶのが大好きな鳥…

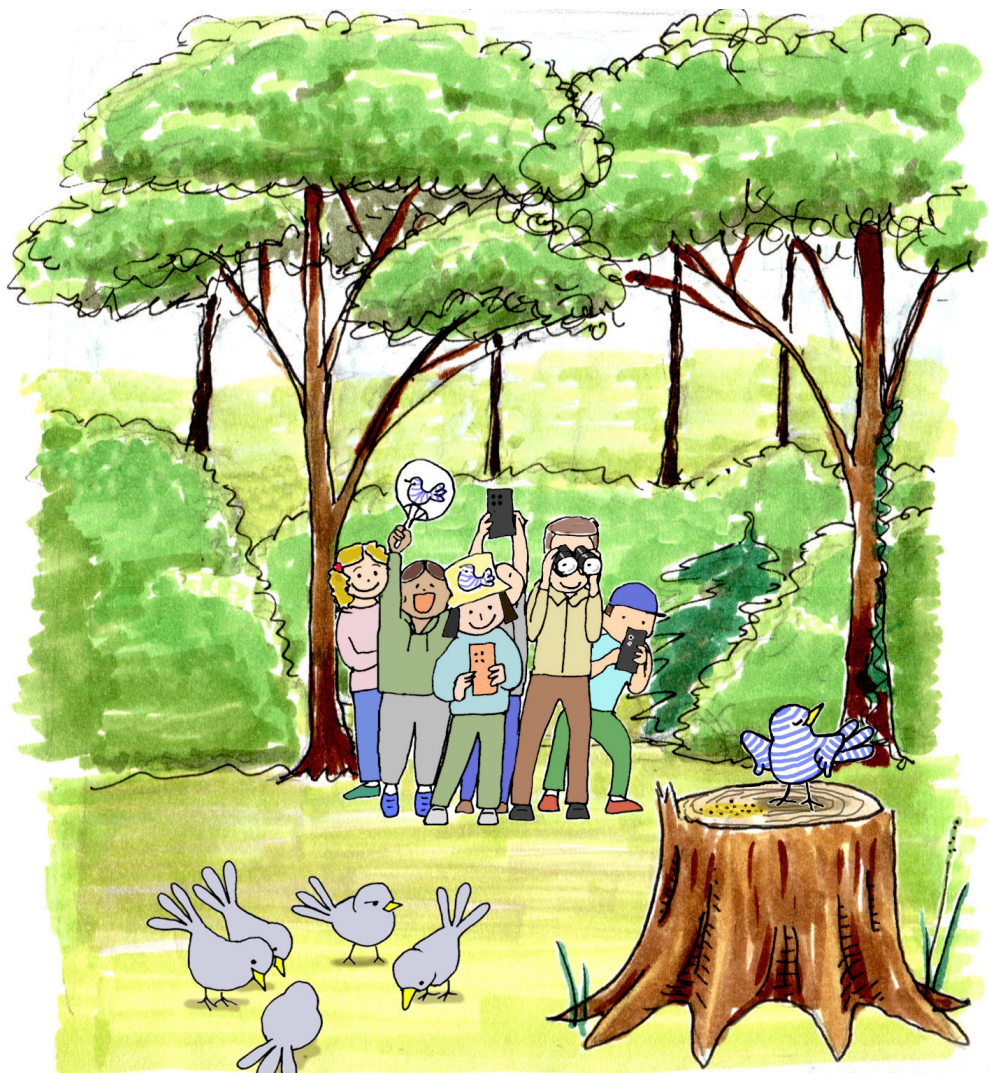
みどりの鳥、  
茶色の鳥、黒い鳥、  
ちよつと灰色の鳥、  
そして…



しまちゃんがいいます。  
あおしろ  
青と白の  
しましまです。







しまちゃんは、  
めずらしい  
しましま模様で、  
小さいときから  
有名でした。

でも、このごろ、  
ちよつと元氣げんきがありません。  
どうしたんでしょう。

しまちゃんには、  
悩みなやがありました。

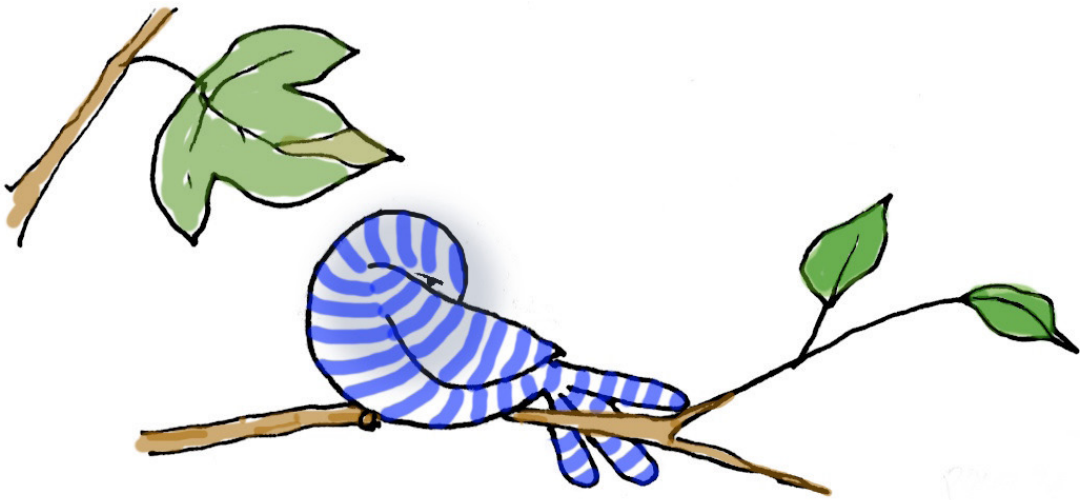
食たべ物ものをさが探しているとき、

青あおと白しろの

きれいなしまのせいで、

他ほかの動物どうぶつに

すぐ見みつかарのです。







「ごめんね、  
しまちゃん」

そう言っいて、

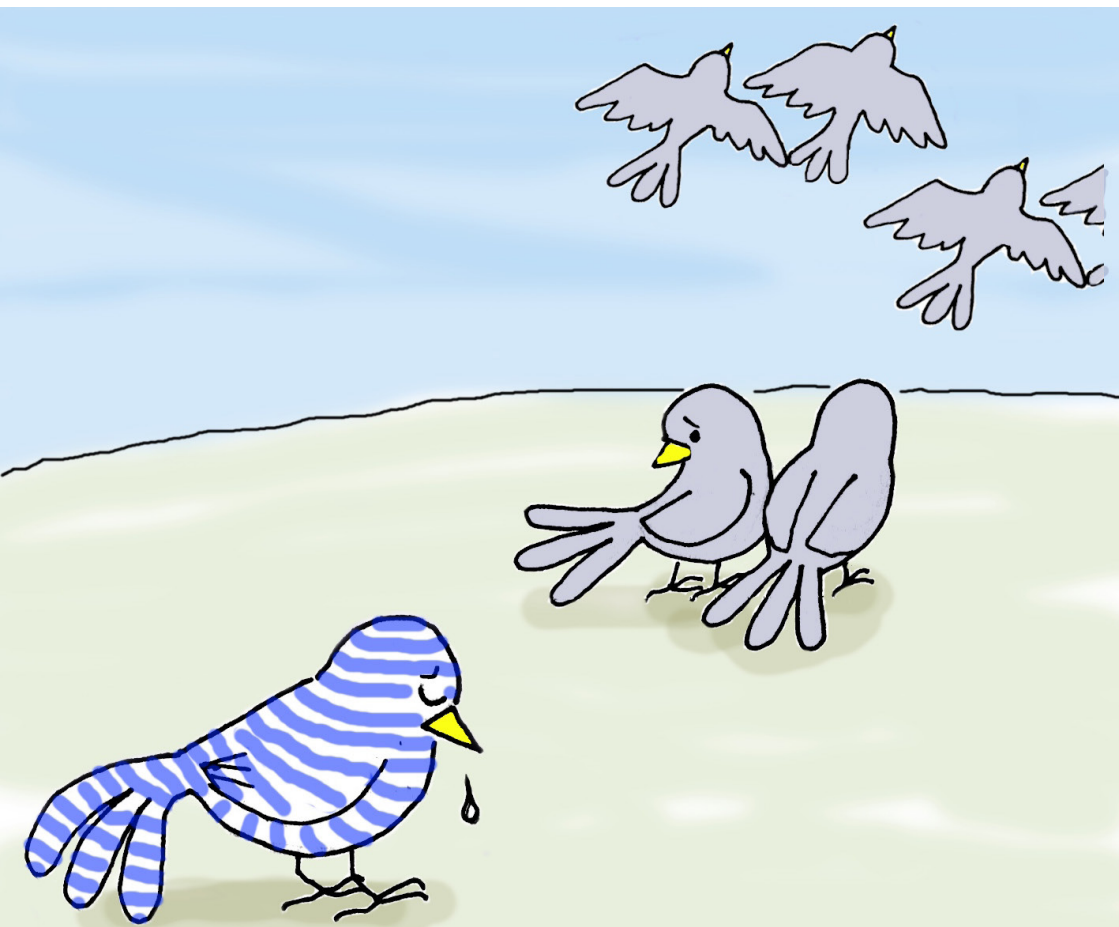
他ほかの鳥とりは、

しまちゃんと

いっしょに

食たべ物ものを探さがすのを

やめてしまいました。



しまちゃんは、

自分の<sup>じぶん</sup>しましが、

もう好き<sup>す</sup>ではありませんでした。

だから、ずっと巣<sup>す</sup>の中<sup>なか</sup>にいて、

ときどき食<sup>た</sup>べ物<sup>もの</sup>を探<sup>さが</sup>しに、

ひとり<sup>で</sup>で出<sup>で</sup>かけました。



みんなは心配しんぱいしました。

「しまちゃんはどこ？」

「どうしたんだろう？」

「しまちゃん、元気げんきかな？」





ある日、

怖いことこわがありました。

しましまのせいで、

大きな動物おお どうぶつに見つみかって、

食べたられそうに

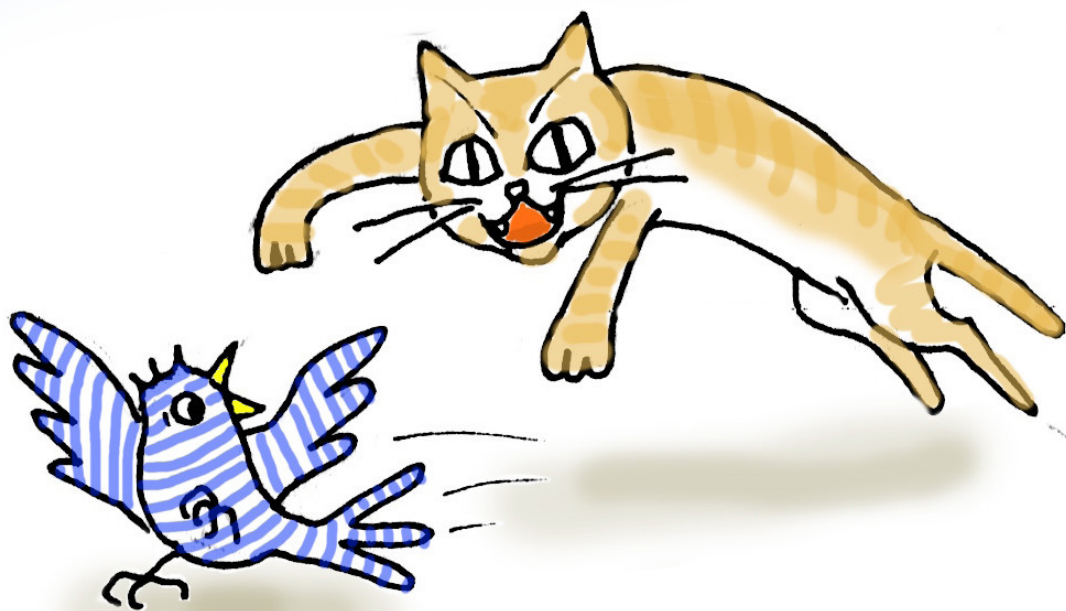
なったのです！

しまちゃん

は疲つかれてしまいました。

「このしましま、

ほんとうほんとう だいきらに大嫌いだ！」







その夜、<sup>よる</sup>

しまちゃんは

巣<sup>す</sup>を出<sup>で</sup>ました。

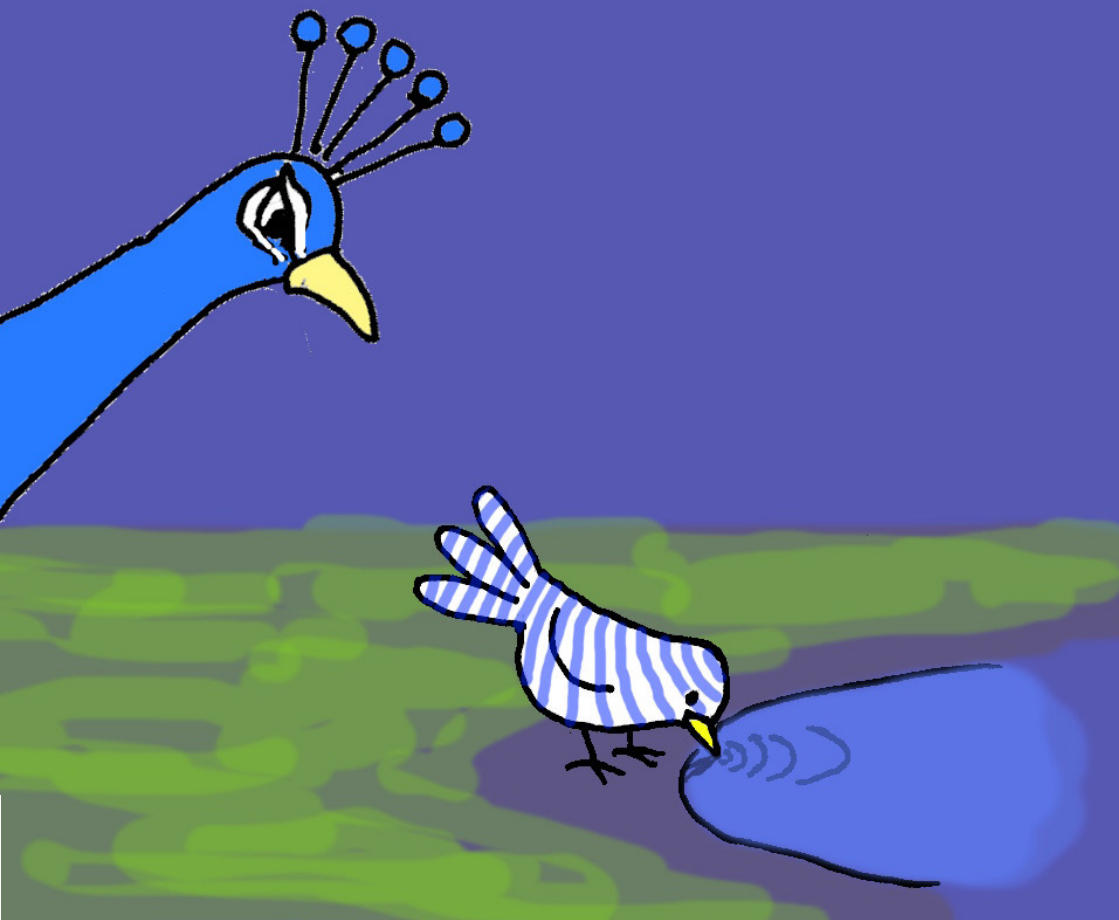
とても美<sup>うつく</sup>しい夜<sup>よる</sup>でした。

しまちゃんは

泣<sup>な</sup>きながら、

暗<sup>くら</sup>い空<sup>そら</sup>を

飛<sup>と</sup>びました。



小さい泉<sup>いずみ</sup>で、しまちゃんは、  
水<sup>みず</sup>を飲<sup>の</sup>みました。

とてもおいしい水<sup>みず</sup>でした。

そのとき、

「こんばんは」と、

声<sup>こえ</sup>が聞<sup>き</sup>こえました。

大<sup>おお</sup>きなクジャクでした。

「こんばんは、クジャクさん」

「こんな遅<sup>おそ</sup>い時間<sup>じかん</sup>に、

ひとりですか」

「…ええ」と、

しまちゃんは答<sup>こた</sup>えました。

「このしましまのせいで、

他の鳥ほか とりといっしょに

食べ物た ものを探さがすことができません。

だから、ひとりなんです」

すると、クジャクは言いいました。

「わかりますよ」

そして、クジャクは羽はねを広ひろげました。

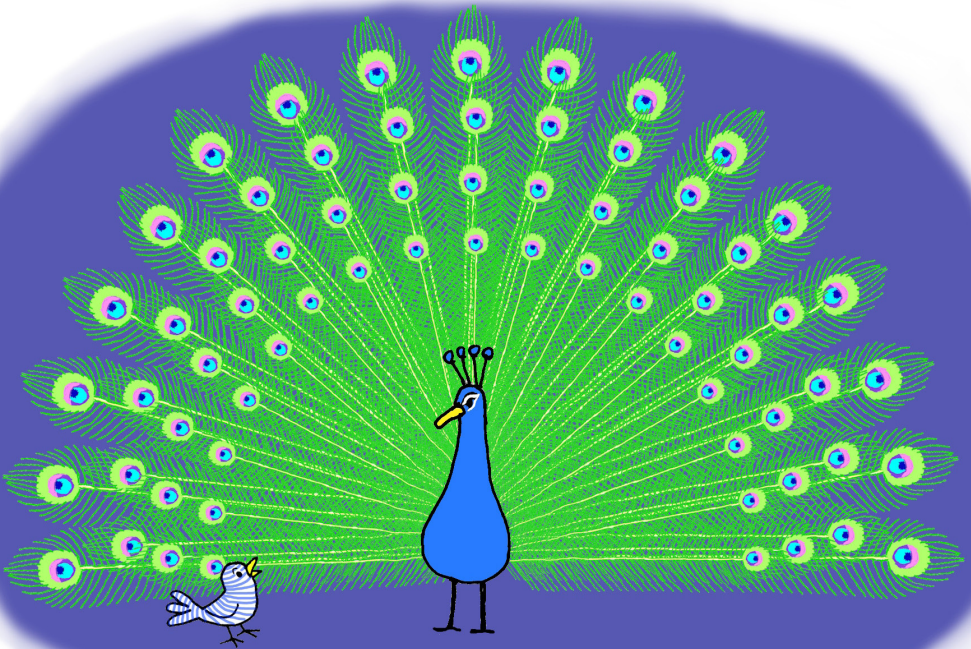
とても大おおきくて、美うつくしい羽はねでした。

しまちゃん**は**びっくりしました。

「うわあ、きれいですね!」

「でしよう?」いと言って、

クジャクは羽はねをたたみました。





「この羽<sup>はね</sup>は、きれいです。  
でも、この羽<sup>はね</sup>を見ると、  
みんながびっくりするから、  
ちょっと恥<sup>は</sup>ずかしい。  
でも、  
これがクジャクの羽<sup>はね</sup>です」  
クジャクは、言<sup>い</sup>いました。

しまちゃんはため息いきをつきました。

「私わたしだけ、しましまなんです。

小さいちいときは、このしましまが

大好きだいすだったけど…」

すると、クジャクが言いいました。

「ほら、ここにある花はなは、

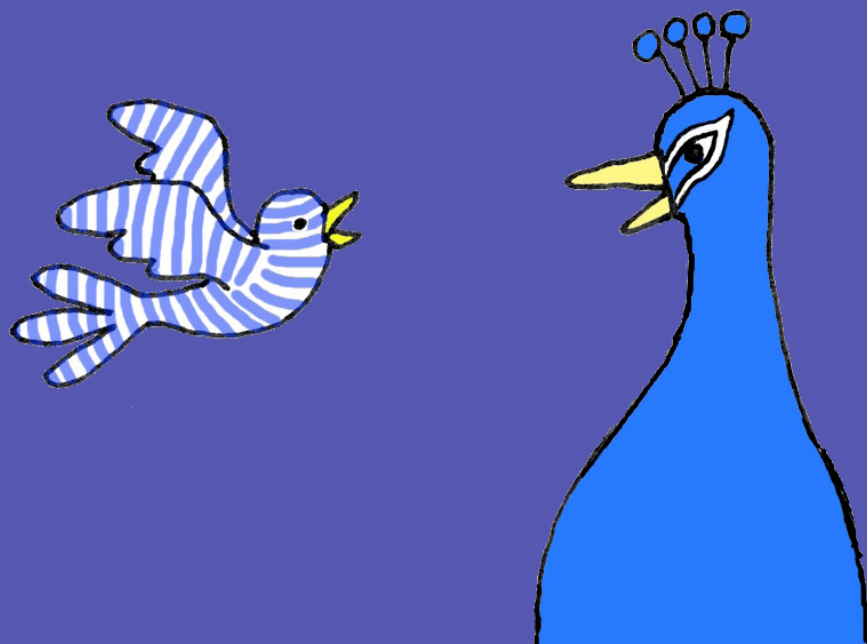
色も形もいろいろでしよう」

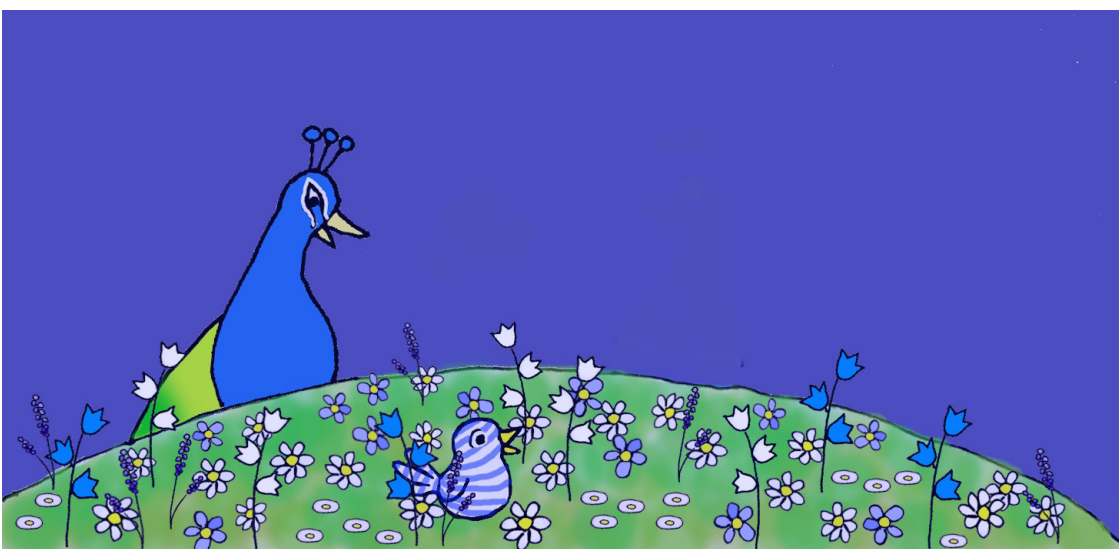
「ええ」

「鳥とりも同おなじ。

色も形もいろいろだから、

おもしろいのです」





しまちゃんは、

朝<sup>あさ</sup>までクジャクと話<sup>はな</sup>して、

それから、

森<sup>もり</sup>へ帰<sup>かえ</sup>りました。

森<sup>もり</sup>には、大<sup>おお</sup>きな木<sup>き</sup>、小<sup>ちい</sup>さな木<sup>き</sup>、

いろい<sup>ちが</sup>ろな形<sup>はな</sup>の花<sup>はな</sup>…

みんな違<sup>ちが</sup>っていました。

「みんな違<sup>ちが</sup>う…。」

色<sup>いろ</sup>も形<sup>かたち</sup>も大<sup>おお</sup>きさもいろい<sup>ちが</sup>ろ…。

だから…

いいんだ！」



そんなとき、

へビが木<sup>き</sup>に登<sup>のぼ</sup>っているのが

見<sup>み</sup>えました。

木<sup>き</sup>の上<sup>うえ</sup>には、

鳥<sup>とり</sup>の赤<sup>あか</sup>ちゃんがいます。

でも、

お母<sup>かあ</sup>さん鳥<sup>どり</sup>がいけません。

「危<sup>あぶ</sup>ない！」

しまちゃんは、

急<sup>いそ</sup>いで

へビに近<sup>ちか</sup>づきました。



そして、クジャクのように、  
自分の羽じぶんはねを広げひろました！

へビは、

しまちゃんの

きれいな青あおと白しろのしましまに

びっくりして、

木きから落おちてしまいました。

そして、

どこかへ逃にげていきました。

そこへ、

お母かあさん鳥どりが帰かえってきました。

「しまちゃん、ありがとう！」





ニュースを聞<sup>き</sup>いて、

みんなが、

しまちゃんに会<sup>あ</sup>いに来<sup>き</sup>ました。

「しまちゃん、すごいね」

「しまちゃん、かっこいい」

しまちゃんは、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の羽<sup>は</sup>が

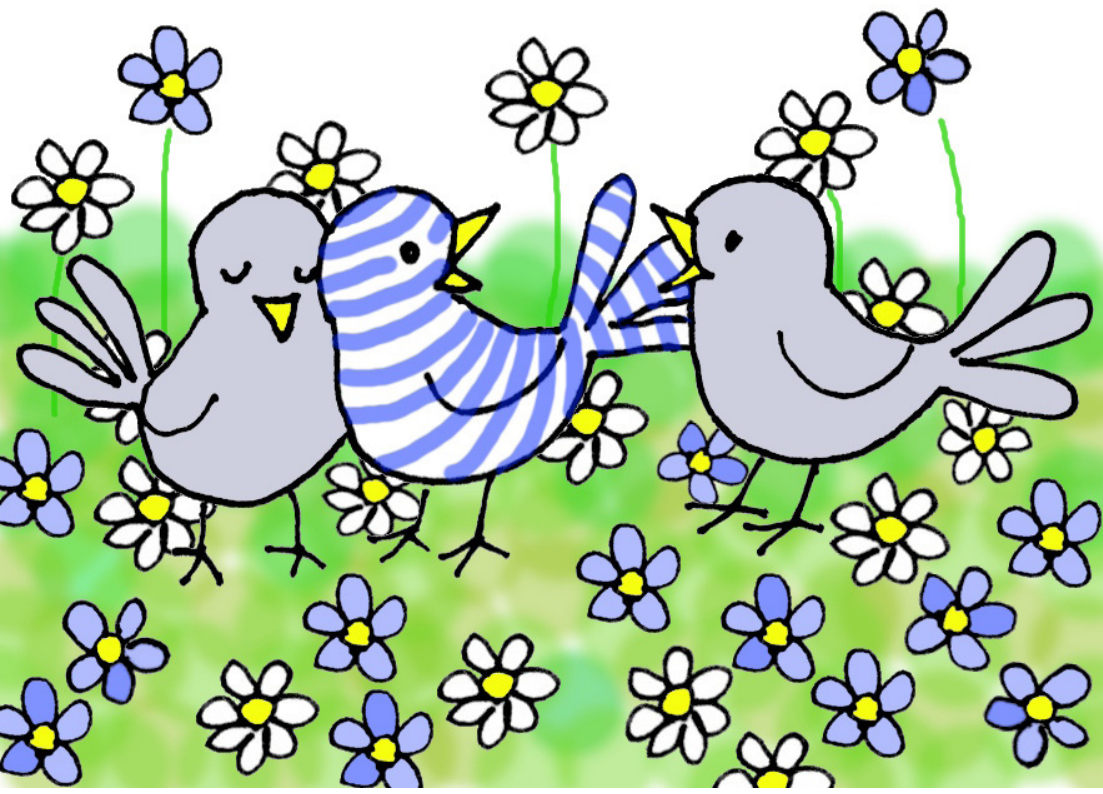
きれいなしましまでよかった、

と思<sup>おも</sup>いました。

そして、自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>のしましまが、

またちよつと好<sup>す</sup>きになりました。

今、しまちゃんは、  
仲間と楽しく暮らしています。  
みなさんも、  
森へ行くことがあったら、  
しまちゃんを  
探してみてください。







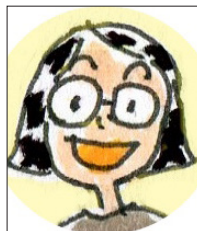
さく なか お ゆき え  
作 中尾 雪絵

おおさか う げんざい ざいじゅう  
大阪生まれ、現在フランスのナント在住、  
ナント大学で日本語を教える日本語教師。  
しゅみ たね そだ えんげい  
趣味は、(種から育てる) ベランダ園芸と  
ごりようめぐ  
御陵巡り。  
しゅうまつ たの  
週末の楽しみは、パン・オ・ショコラ  
またはクロワッサン。



え ば ば きょう こ  
絵 馬場恭子

いばら き けんしゅっしん  
茨城県出身。  
し みんだいがく  
ドイツ、ヒルデスハイム市民大学と、  
およう か がく げいじゅつだいがく にほんご  
ハノーバー応用科学・芸術大学で日本語を  
おし  
教えている。  
しゅみ え か  
趣味は絵を描くことと、バードウォッチング。



へんしゅう めぐ み ありすえ じゅん  
編集 石川芽生, 蟻末 淳

## しましまの鳥

2025 年 11 月 20 日初版発行

さく なか お ゆき え  
作 中尾 雪絵  
え ば ば きょう こ  
絵 馬場恭子

はっこうじょ こくさいこうりゅうききん にほんぶんかいかん にほんごじぎょうぶ  
発行所 国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部



国際交流基金パリ日本文化会館日本語事業部